

地質ニュース

NO. 8 1954-5

地質調査所

天草炭田の無煙炭



天草大岳炭鉱本卸、左大切2尺層の“カワラケ炭”柱状節理

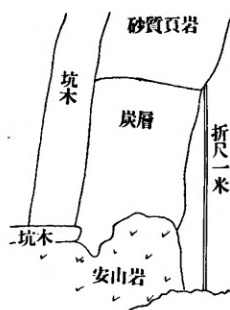
天草炭田の石炭は炭化の進んだ揮発分の少い無煙炭で、俗に「キラ炭」と「カワラケ炭」という名称で2種類の石炭に分けられている。

「キラ炭」は無水・無灰基固定炭素 83~88%、「カワラケ炭」は92~97%で前者は炭田の全域に、後者はおもに炭田北部に発達している。

「キラ炭」は粉状で見事な鏡肌をもち、激しい動力変成作用を受けたものと考えられ、「カワラケ炭」は柱状節理の発達したいわゆる天然コークスで、石炭の生成後火成岩の接触熱変成作用を受けてできたものと解されている。（石炭課）

〔写真説明〕

炭層の下盤に直接する安山岩床（厚さ6~7m）のため石炭は天然コークスとなり、5~6角の柱状節理が発達している。（福岡駐在員事務所）



左の説明図